

平成 24 年度 新磯地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	新磯菊花・仲間づくり事業 [1]
申請団体	新磯菊親会
事業目的等	<p>菊花展に出展する菊づくりを通し、伝統ある菊文化の継承と地域の仲間作りを推進し、各種事業団体と連携を図りながら菊花展を開催することにより、地域の人々とのコミュニケーションを深め、賑わいのある秋の新磯地区の地域活性化に寄与することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊花展に展示する菊をつくるとともに仲間作りを推進 ・菊花展を開催するとともに各種事業との連携を図り、事業PRにも力を入れて取り組む。
交付決定日	平成24年 5月23日
交付決定金額	65,000 円 (全体事業費 65,000 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域情報紙(10月1日号)、新磯観光協会PRポスター、その他イベント会場等で菊花展のPR ・新品種の小菊苗を購入し、新磯地区敬老福祉事業(10月28日開催)でプレゼントする小菊づくり ・菊花展の開催(新磯公民館・新磯まちづくりセンター敷地内) <ul style="list-style-type: none"> 10月31日(水)菊花展会場準備 11月1日(木)～10日(土)開催 11月11日(日)天候の関係で1日繰上げて修了 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊花展を開催する目標を通し、菊文化の継承を通じて諸団体との交流が生まれたと同時に仲間づくりの気運が高まり目標に向かって効率的行動ができた。 ・新磯観光協会及び新磯自治会連合会より機材の借用や菊花展PRのポスター掲示の協力を得ることができ、地域団体との信頼関係を築けた。 ・相模原市磯部民俗資料保存会と見学誘致協力により市立上鶴間公民館事業(11/6・40名)と交流。 ・展示会場は人々が集まり易いよう、心が癒せる場づくりを心がけコミュニケーションを一層深めまちの活性化に寄与できた。 ・新磯まちづくりセンターの支援を受け3年。菊花展の開催、仲間づくり、まちの活性化を目標に事業総合的に展開した結果、菊花展会場の環境にも恵まれ地域住民の関心を得る事ができた。会員も地域全体に広まり女性会員の加入が増加した。
市 評 価	<p>団体運営部分と地区活性化への貢献部分とを明確に整理し、課題とされた会の育成に努めるとともに、各種団体のイベントや福祉事業とも協力を図りながら、菊による秋の賑わいを演出されました。今後も、地区全体の活性化に寄与する取組を期待します。</p>
備 考	

申請事業名	ざる菊花見会 [2]
申請団体	新磯ざる菊愛好会
事業目的等	<p>新磯地区の秋の魅力を高めるため、平成21年度から住民有志により取り組む「ざる菊」による花の名所づくりを推進し秋の観光名所として市内外からの交流人口の向上を図るとともに、他団体との連携を促進し、新磯地区の秋の地域活性化に寄与することを目的とする。</p> <p>勝坂歴史公園南側に位置するところ600坪に、住民有志で紅、白、黄、ピンクなどの約1,200株のざる菊を栽培しており、10月下旬から11月中旬頃までざる菊花見会を開催する。(入場無料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ざる菊花見会の開催準備(パンフレット増刷、ポスター作成等PR物製作等) ・ざる菊花見会の開催 平成24年10月下旬～11月中旬 ・勝坂遺跡縄文まつりとの連携強化や、同時期に協力関係のとれる団体と連携を図り、花見会会場等に「秋のイベント等散策マップ」を設置し、一日楽しめる新磯地区巡りを推進する。
交付決定日	平成24年 5月23日
交付決定金額	300,000 円 (全体事業費 301,765 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット(15,000部)やポスターの制作及び市役所・農協施設に設置 ・南区合同庁舎、新磯まちづくりセンター、JA新磯支店等へざる菊を展示しPR ・ざる菊会場準備(10月22日～)・看板、幟旗等の設置など ・ざる菊花見会の開催(期間10月27日～11月17日、見学者数12,500人(前年比5,500人増加)) ・野菜の販売、ヤキイモの販売など ・勝坂遺跡縄文まつりとの相互協力(11月3日) ・花見会式典(11月4日)・地元商店の出演、トン汁サービス、オカリナと太鼓の屋外演奏会等 ・写真展 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新磯観光協会や新磯菊親会(菊花展開催)の開催ポスターなどをざる菊会場に掲示し、ざる菊とともに秋の新磯地区全体を盛り上げることに寄与したと感じている。 ・花見会はすでに定着し来場者が増加し、秋の地域のシンボルとして根付いてきた。 ・会場等での安全管理、地元商店の参加、誰でも参加できる写真展、オカリナや太鼓の演奏など、来場者へのおもてなしも配慮することができ、イベントの質や団体としての能力も高まったと思う。 ・過去最高の人出となりうれしい反面、会場が住宅地の一部にあり、駐車場や交通整理の面で課題も生じており、対策を検討しなくてはならない。 ・地域の方のご協力もあり全体的に盛り上がったと思われる。今回は、南区合同庁舎等へもざる菊を展示した新たなPR活動も行った。今後も、各方面の協力をいただきながら、秋の新磯地区を元気にしていきたい。
市 評 価	<p>ホームページの開催による情報発信、新たに写真展の開催など、イベントの質やサービスがさらに向上しました。反面、人気上がり見学者が増加したことに伴う安全対策を検討する必要がありますが、地元や他団体との連携、団体の役割分担なども強化されてきましたので、新たな課題にもきちんと対応できるものと期待しています。</p> <p>色鮮やかで、日々その色合いを変えるざる菊の魅力により、秋の新磯地区の活性化を達成したものと評価しています。</p>
備 考	

申請事業名	帆かけ舟の造舟と継承記録事業 [3]
申請団体	相模原市磯部民俗資料保存会
事業目的等	<p>平成23年度から24年度にかけて、帆かけ舟の新舟を制作するとともにその作業工程を記録した文化資料をまとめることにより、相模川の自然を大切に、地区の古き良き文化を次代へ継承する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帆かけ舟の造舟 ・帆かけ舟の文化を継承するための記録保存
交付決定日	平成24年 5月23日
交付決定金額	300,000 円 (全体事業費 798,000 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確保した木材の製材 ・映像の記録 ・設計図の作成(舟大工の作業に基づき会員が作成) ・帆かけ舟の製作 2か月で舟は完成 ・帆かけ舟の製作には会員も補助作業を行う <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度から帆かけ舟の復元実演会を年1回から年3～4回行う企画を話し合うことができ、地域文化として、地元の人達がまとまり、地域コミュニケーションが活発になり地域が活性化された。 ・帆かけ舟の復元実演会を行うことで、多くの方が見に来ることから、相模川の現状を維持し、自然環境を守る一助ともなる。 ・これまでなかった設計図と作業映像記録の資料を残すことにより、我々世代の想いを次代に継承できたことが何より貴重であった。 ・磯部から相模川と大山丹沢を望むすばらしい景色にさらに帆かけ舟が加わり、相模原市民として自慢できる風景がひとつ加わったと思う。 ・帆かけ舟という明治から昭和にかけての地域文化として、長く継承することができる。
市評価	<p>念願の帆かけ舟の製作とともに、明治時代から昭和初期にかけて活躍した相模川の帆かけ舟の原型を後世につなげるための設計図及び作業記録映像が完成し、皆さんの原点である地区の先代の想いをのせた帆かけ舟の勇姿を、たくさんの人にみてもらえるようご活躍を期待します。</p>
備考	

申請事業名	相模川下磯部地区芝ざくら植え替え保全事業 [4]
申請団体	相模川芝ざくら下磯部愛好会
事業目的等	<p>相模川の自然と環境を守るため堤防敷きに「芝ざくら」を植え育て不法投棄の防止と河川環境の改善を図るため下磯部自治会、老人会及び大凧保存会が結束して、平成 16 年 7 月「相模川芝ざくら下磯部愛好会」を結成し、平成 16 年度から 18 年度の 3 か年間で延長役 540m 区間の堤防を整備すると共に芝ざくらを植栽し、今日まで地域が一丸となって、その育成と維持管理を実施している。</p> <p>芝ざくらは植栽後 4～5 年経過すると老化し枯れはじめますので、順次新しい苗に更新させ維持管理をしなければなりません、延長や植栽面積も広いことから植え替えをする苗の確保が財源的な面で大きな課題となっております。従って、枯れはじめた芝ざくらの更新対策がより一層必要でありますことから、今回地域活性化事業交付金の活用を受け苗の購入費用に充てると共に魅力ある整備に努めてまいります。</p> <p>・法面整備、芝ざくら苗の植え替え</p>
交付決定日	平成 24 年 5 月 23 日
交付決定金額	500,000 円 (全体事業費 505,707 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝ざくら苗を植えやすいよう法面の整地作業を実施した。 ・芝ざくら苗 4,600 ポット(オーキントン 850、モンブラン 1,000、ライトブルー 350、オータム 1,450、スカーレット 950)を購入し、植え付け作業は、地域(自治会、老人会、大凧会員)の協力を得て実施した。 ・交付金による植栽距離は 150M。 ・芝ざくら苗の植え付け後、散水作業を実施し、根付きの定着に配慮した。 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模川の芝ざくらは市内をはじめ近隣都市から多くの人達が訪れ、またその期待も高まっています。一方その維持管理につきましては、芝ざくらが 4～5 年経過すると老化し枯れはじめます。更に、近年の夏の猛暑により枯れる個所も多く、その保全対策が管理も長いことから課題となっておりますので、交付金の活用により、芝ざくらの継続的かつ適正な植え替え実施をし、相模原市の魅力ある観光資源の保全とともに相模川の自然環境の改善に努めることができた。 ・芝ざくらの苗の植え付けは、秋季に行うことが最適と言われ、例年どおり 10 月に植え付けを実施しましたが、予定した時間で終わらず、翌日も実施しました。ところがあいにくの雨で、雨が上がり次第開始することとしましたが、午前 10 時頃から数人、午後からは老人会女性部の参加も得られ、完了いたしました。このことにつきましては、会員各位も雨あがりの状況をいち早く判断し、現場に駆けつけていただき、所定の数量の植え付けが完了したわけです。なお、この会も発足して 10 年近くなり、会員の高齢化を迎え年々出席会員が減少傾向になっていきます。これからの対策が今後の課題です。
市評価	<p>地域住民の協力のもと、芝ざくらを植え替えることは、コミュニティの増進のほか、地域を元気にする取組みとして評価できます。また、相模原市では、日本一の長さ(1.4キロ)を誇る芝ざくらをシティセールスとして活用しており、さらには開通が迫る圏央道による効果の高まりに期待がされていることから、シティセールスの面でも多大な貢献をしていますし、所期の目的である環境保全の公益性の点でも優れた取組みです。活動が 10 年近くなり、それとともに協力者の高齢化などの課題も出てきていますが、まずは、ひとつの課題とされた芝ざくらの植え替えが実施できたことで、今後も、ひとつずつ課題を解決し、いつまでも継続的に活動が行われることを期待しています。</p>
備考	相模川芝ざくら 1.4キロは、新戸芝ざくら管理委員会と相模川芝ざくら下磯部愛好会の 2 団体が区間を分けてそれぞれ維持管理している。

申請事業名	相模川新戸地区芝ざくら植え替え保全事業 [5]
申請団体	新戸芝ざくら管理委員会
事業目的等	<p>相模川新戸地先第1堤防の法面は、高さ2メートルを超える雑草が繁茂し、また不法投棄が絶えないことから、この堤防の法面を綺麗に整備すれば、不法投棄やごみの投棄はなくなるだろうと考え、「孫への遺産 花の絨毯 芝ざくらづくり」をモットーに、平成14年9月から相模川に芝ざくらの植栽を開始し、現在では約1,662mの区間、8,603㎡の芝ざくらの育成と維持管理を行っている。芝ざくらは植栽してから4～5年もすると老化して枯れ始めてしまうので、順次植え替えを行う必要があり、近年は枯れた場所の増加、植え替えにかかる経費の捻出、担い手の人材不足等が深刻化している。相模原市地域活性化イベントの「相模川芝ざくらまつり」には、市内外から大勢の人々が訪れ、相模原市を代表する春の観光スポットになっていると自負しており、その魅力を的確に維持管理していく必要があります。</p> <p>このため、枯れた場所や植え替え時期が到来した場所について、法面整備を施し、芝ざくらの苗を植栽し、芝ざくらラインの保全を推進するとともに、多くの来場者に憩いの時間を提供する相模原市の観光資源の魅力向上に寄与する。</p> <p>・法面整備・芝ざくら苗の植え付け作業</p>
交付決定日	平成24年 5月23日
交付決定金額	500,000円 (全体事業費 500,000円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植栽計画と苗の発注 ・枯れた芝ざくらの撤去と法面整備 ・総延長1,662mに対し、約200m、約625㎡に10,000株(苗)を植栽した。 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川敷への不法投棄防止に貢献した。 ・日本一の芝ざくらラインをキャッチフレーズに市の支援を受け、相模川芝ざくらまつりを開催しているが、今年の芝ざくらまつりではかるうじて1.4キロがつながっていたが、今回植栽した部分にはほとんど芝ざくらが見られない個所であった。来年は、日本一の1.4キロにわたる芝ざくらを紹介できる。 ・植え替えた部分は、2年もすれば元気な姿をみせることだと思う。 ・対岸の圏央道が来年3月までに開通するが、日本一長い芝ざくらをPRすることで、相模原市のシティセールスにも貢献できる。 ・相模川芝ざくらまつりに訪れる観光客に楽しんでもらうことができる。 ・組織体制の見直しを行い所期の目的である「孫への遺産」としていつまでも芝ざくらラインを残していきたい。 ・今後は、会員の高齢化などに対応するため、大学生との交流などを会で話し合っ、活動の継続性や、芝ざくらの保全に努めていきたい。
市評価	<p>相模原市では、日本一の長さ(1.4キロ)を誇る芝ざくらをシティセールスとして活用しており、さらには開通が迫る圏央道による効果の高まりに期待がされていることから、シティセールスの面でも多大な貢献をしていますし、所期の目的である環境保全の公益性の点でも優れた取組みです。新戸地区の課題は、1600m(上段1.4キロ対応部分は900m)を超える長さ、約8600㎡の植え付け面積を誇る芝ざくらの植え替えと、それに対応する作業人員の確保であり、交付期間の3年間において、積極的に様々な取組みを行っていました。活動が10年を超え、これからも継続して課題に取り組む必要がありますが、日本一の所以となる1.4キロの復元が完了しましたので、今後も、ひとつずつ課題を解決し、いつまでも継続的に活動が行われることを期待しています。</p>
備考	相模川芝ざくら1.4キロは、新戸芝ざくら管理委員会と相模川芝ざくら下磯部愛好会の2団体が区間を分けてそれぞれ維持管理している。

申請事業名	新磯地区観光イベント支援事業 [6]
申請団体	新磯観光協会
事業目的等	<p>新磯地区は、史跡勝坂遺跡などの文化財や雄大な相模川などの自然が多く残る地域であるとともに、相模の大凧まつりや相模川芝ざくらまつり、自治会と協力して取組む新磯桜まつり、市民団体主体のざる菊花見会などのイベントが開催される地域資源が豊富な素晴らしい地域であるが、イベント主催者は地域住民を中心とした実行委員会や団体が複数あり、イベントを開催する際には、それぞれの団体において情報発信やPR活動並びに備品等の不足対応や準備を行っている現状から、まちづくりの視点からの総括的な観光イベントへの支援が求められており、新磯地区で実施されるイベントに係る相談や物的支援を行うとともに、情報集約やネットワーク化の構築による総括的な情報提供サービス活動を行い、新磯地区の観光イベントのさらなる活性化や魅力づくりを推進し、新磯地区の観光によるまちづくりに寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント機会等に新磯地区のイベント情報発信コーナーを新設し、新磯地区のイベントPRや報告を行い、イベントのセールスを拡充する。 ・新磯観光協会が購入し所有するイベントグッズ等を拡充する。 ・地区の観光資源と評価できる事業等については、魅力を高めるための相談対応や支援を行う。
交付決定日	平成24年 5月23日
交付決定金額	200,000円 (全体事業費 200,000円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度から開始した備品貸出事業用の「幟旗」等を購入した。 ・相談に応じ、支援として「新磯ざる菊花見会」等区内数多くのイベントへ貸出した。 ・区内観光イベント実施団体代表者を、新たに新磯観光協会役員に迎え、新磯観光協会の組織強化を図った。 ・情報発信事業として、秋の新磯地区内観光イベント及び見所等PRポスター及びチラシを作成し、公共機関等へ協力をよびかけ掲示・配布した。 ・「新磯桜&芝ざくら写真コンテスト」を新規実施し、一部消耗品等を支出した。 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡充された備品を各イベントへ貸し出すことにより、さらなるイベントの活性化につながり、イベントの魅力が高まった。 ・組織強化を図ったことにより、区内団体が連携できる体制が整い、さらに新磯地域観光振興を全般的に進めていく体制が出来た。 ・チラシの掲示により、区内のみならず、地区外へも新磯地区観光イベント・見所のPRが行われ、外部からの問い合わせや反響があったことから、一定の効果が得られたと考える。 ・新磯地区のふるさと観光が一層推進でき、また地区外へ向けたPR体制が整った。
市評価	<p>ふるさと観光の振興を図るため、イベント情報の発信強化やイベント環境の充実により、イベントの質やサービス等を向上させた点は、一定の成果があったものと感じています。また、新たに、イベント主催団体が新磯観光協会組織へ参画したことにより、人と物と事業の連携が生まれた点は、非常に価値のある取組みであったと評価しています。</p> <p>今後は、圏央道の開通により、来訪者の増加も想定されますが、新磯地区が益々賑わうためのリーダーシップを発揮し、地域の活性化に寄与することを期待しています。</p>
備考	

申請事業名	勝坂歴史公園芝ざくら植え替え事業 [7]
申請団体	勝坂芝桜愛好会
事業目的等	<p>勝坂歴史公園(全体面積6,700㎡ 管理面線5,200㎡)に植栽している芝ざくらの植えかえと新規植栽を行う。</p> <p>草木に覆われ物騒な場所であった勝坂歴史公園を平成18年度から市アダプト制度で除草するとともに、訪れる市民のよりよい憩いの場所となるよう芝ざくらを植栽し、平成20年度からは「勝坂芝ざくらまつり」を開催することにより、地域の活性化にも努めてきたが、会の高齢化が進むなどにより活動の継続性に課題があることから、新たな仲間づくりを推進し活動の活性化を図る。</p> <p>・芝ざくらの植え替えと新規植栽</p>
交付決定日	平成24年 5月23日
交付決定金額	180,000円 (全体事業費 186,781円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に芝ざくら苗購入先業者と打合せを行った。 ・10月から11月までの全9日、高齢者の健康を考慮し、2人組みのペアを組んで交互に植栽を行った。 ・園路沿い400M弱に1,450ポットの植栽を行った。 <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝ざくらを植えるためには、土壌の整地を行うことから、植栽場所の環境美化が進んだ。また繁茂する草も処理し、防犯効果も高まった。 ・一昨年は2,500ポット、昨年は2,050ポット、今年は1,450ポットを植栽した。過去に植栽した芝ざくらが猛暑のため枯れてしまったところも出てしまったが、来春には散歩する人や近くの老人ホーム、また地元住民に楽しんでもらうことができる。 ・3年間、交付金を活用して芝ざくらを植栽した。近くに2つの老人ホームが開設し、そちらの施設にも芝ざくらを植えてもらった。来春は、勝坂歴史公園周辺が芝ざくらで賑わうことだと思う。 ・他団体の協働は困難であった。先方にも都合があり難しい。
市評価	<p>芝ざくらを維持管理するための仲間づくりについては、色々と苦労しながら取り組まれましたが、結果的には好転せず残念ではありますが、環境美化の推進及び安全安心のまちづくりに関する貢献度は高く、さらに近隣の老人ホームを含めた勝坂歴史公園周辺の芝ざくらが増加し、春の賑わいが期待できることから、所期の目的を達成したと評価しています。今後も粘り強く組織強化に努め、会の活発化が図られるよう期待します。</p>
備考	

申請事業名	共助意識の啓発事業～ネットワーク強化で災害に強いまちへ～ [8]
申請団体	新磯地区自治会連合会
事業目的等	<p>地区内部における防災関係組織・機関の意見交換や情報交換を行う機会を創設し、地区内のそれぞれの組織・機関の取り組みなどを学ぶことにより、ネットワーク強化による新磯地区全体の防災力を組織的に高めるとともに、実効性を高めるための共助意識の醸成のためのチラシ等を作成し、足元を固める自治会加入促進事業も併せて展開することにより、災害に強い地域づくりを着実に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換、情報共有を図る会議体を創設し運営する。 ・地域防災の現場をつなぐため、新磯地区内の組織・機関の交流を図りながら、普段から顔の見える関係を構築する。 ・地区内連絡体制の整備 ・24年度は、防災・減災ニュースを作成し、将来的にはポスター、防災マップづくりなどを企画したい。
交付決定日	平成24年 9月 4日
交付決定金額	230,000円 (全体事業費 230,000円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の47組織・機関等へ参加意向確認照会(9/5) ・39の組織・機関等が参画 ・新磯地区自治会連合会正副会長会議にて、防災専門員と運営に向けた最終調整(10/18) ・第1回新磯地区防災連絡協議会開催(11/13) ・平成25年3月「新磯防災」を発行(15,000部)し新磯地区防災連絡協議会会員等へ配布(自治会加入申込み書を印字) <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会が中心となり、防災減災対策を地域全体で考えていくことが使命であり、多くの賛同を得て、組織が設置できた意義は大きい。 ・組織目標のひとつに「災害に強い地域づくり」を掲げており、別途進めている災害時要援護者避難支援事業の効果もあいまって今年度の目標を達成することができた。 ・防災減災対策に関し、地区内主要団体の役員の共通認識が進んでおり、方向性についてもまとまってきた。 ・自治会では、自治会に加入しない世帯や脱会する世帯の取り扱いに課題があり、その対策に悩んでいるが、今一番重要であろう防災減災の視点から、地域のつながりの必要性を説いたように、今後も有効な方法を見つけながら、普段の地域コミュニケーションの必要性を啓発していきたい。 ・住民によるまちづくりに対する理解が一層進み、防災減災以外の防犯、交通安全、福祉、環境などへも広げていけるよう努めたい。
市 評 価	<p>東日本大震災の発生から2年が経過しましたが、住民の意識には、防災・減災が重要なテーマであることには変わりがなく、備えなければならない使命感がありました。防災・減災の方法をより多くの住民と考えるための協議会設置は有意義であると思いますし、住民周知を図るチラシも共助意識を醸成するためには重要な取組だと思えます。普段からの地域コミュニティが益々活発化し、好影響が出せるものと期待しています。</p>
備 考	